餅酒太平記 一

13
1347
1

餅酒太平記

一

宮城縣図書館
門 へ 13
號 1347
卷 1-5

解酒五手 祝序

能俊吏中 清華流の賛辞

曰吏人間 無の孔二冠

甚下 富儀 時の人間

把くも 把とそ 無元

廉くる 孫 用る 拾て舞

奴曲を教ふるに口の其味を
掌にされば花より風ふる水
沙は其べし其原は同じ
穀なりもしも無き海とあり
搗て解と成て酒有
とかけて解ば酒有下戸
解酒もを盗人下戸
解酒ちうれとも是は下戸
方うり上戸を通ぶ
元ーちいものごと下戸より上戸
方を盗人下戸とりふるを盗
うち元ちくの遊

[illegible]の[illegible]なるさとに
[illegible]が[illegible]酒[illegible]
[illegible]酒[illegible]
[illegible]酒[illegible]
[illegible]の[illegible]酔[illegible]
[illegible]酒[illegible]

[illegible]れ下[illegible]に酒を食
[illegible]酒を飲
又酒酒[illegible]の二つ也
酒[illegible]ば陽[illegible][illegible]
酒[illegible]ば酒[illegible]也[illegible]
と[illegible]先生の酒[illegible]

面白くあそびけれバ餅酒の
おもむきを宴席に続けし
筆に心ひしく餅酒太平
乾と語し
餅の御とし
又ハ酒肴し
てをくめるひきてみを
ちつちる

長に餅をもとしての理
論文字嗜
味方にもせんと好み引若
餅菓子酒ばし吟ゑさらや
雪色のそくじ頭ハ下戸もさきの
白霧餅くゝも茶屋の乞徳み

[illegible]

なりしかの解

大將ハ誰そ[illegible]

[illegible]海の[illegible]解軍記

敵[illegible]ものく[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]梅ハ[illegible]

の[illegible]

[illegible]海[illegible]

[illegible]

[illegible]海[illegible]

[illegible]

書上ケ之覚

一諸色之儀

米麦酒醤油等之儀

記

[illegible]酒屋

[illegible]酒屋五軒 [illegible]

巻之壱

一 歳徳五[illegible]酒屋 [illegible]

[illegible]年

[illegible]梅屋敷 [illegible]

[illegible]梅屋敷の事

巻之弐

一 藤原実方朝臣の事

一 左兵衛督実方朝臣の事

巻之四

一 俊頼宮内卿の事

一 新撰和歌の事

巻之五

一 歌道の秘伝の事

并 陽和酒方 幾種の事

巻之七

一 諸年の節句 全戒寺開山

相陳寄合 の事

并 菓子 饗応 作法 の事

巻之八

一 阿波路の寺 松樹 桜 桔梗

第三十番 の事

并 水陳 元禄 の事

一 義園 園子法師 武士酒方

意休 七夕 の事

并 高砂 能 謡 の事

巻之九

一新古今中世龍華堂供養の事

一同五條の事

一茅屋の中世世界を故事

巻之拾

一極楽の事

一同五條自殺

一茅屋

巻之拾壱

一石屋開基

一同五條世界の事

一茅屋

巻之拾弐

一 国子之道自元亨 [illegible] 沼田[illegible]陣と通攻る事
并 [illegible]河[illegible]郎[illegible]捕る事

巻之拾参

一 池田伊[illegible]寄方[illegible]る事
并 [illegible]

巻之拾四

一 [illegible]山并[illegible]合戦并酒井[illegible]
并 [illegible]

巻之拾五

一 十二家会[illegible]酒[illegible]寄方[illegible]
[illegible]軍[illegible]事

義士伝の説に牡丹餅屋の事

巻之五 七

一 砂糖餅屋の娘勇牡丹餅屋の義の事

第十 夜討義士後の事

巻之五 八

一 酒方丈偶酒客の事

一 酒屋町芝居新酒の祝の事

第十一 喧嘩の事

巻之拾九

一 東鑑博奕の酒方 [illegible]

一 [illegible]

巻之拾九

一 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

餘酒天平地獄卷之壹

歳徳天皇時代

辛酉の年

伯耆国の守伊弟波屠侯

出雲国造執の事

是

昆陽の法師の中

[illegible]

[illegible]

海の二りよう　清州
石孤山　陣屋
と町　並の一町のこと
陣屋　酒屋
其ほか　人の
海の　尾州　精進の
寺　伊勢　陣屋の　京都
伊丹の　陣屋　酒屋　傳馬

五ひき　馬　大事　陣屋
しを　考て　年　陣屋
の　高さ　元　祖　陣屋　明の
金子の　年　徳三
御金の　通り　酒屋　珊瑚　酒
年　まし　甚ぶ　甚　陣屋
先　こ　酒　色の　大坂　ちや
ん　酒　の　陣屋　陣屋　陣屋

丁面張の三方絵馬の下げ
緒をつけ四つ
ハ陽海老作物
勢京ゑんなの数
掛まで〳〵海老
つけハ長浜ゑ
作者豊年張
神花ゑ
年暮雅子一言
人ハ俗作院の寺色々の大役
物ゑの宮役をつけ其骨組
色〳〵〳〵〳〵〳〵
鯖〳〳〳〳〳〳〳〳
考へ日役ハ屠蘇
へ出さて仕の
〳〳〳〳〳〳〳〳
大役

つけい碁俗雅雅
組入組子まるまる神棚
せそしてあ若葉びしらり時お
門和漢の意やたるハ今年
ハ元旦ゟ七ツめぶ和歌
年俳諧の俳句
れハ那しく俳諧の毒
とまの大学の部つけ

際酒毒ゟ俳諧
ゟ言葉を浮雲
とそれハ毒人ゟ俳意
俗ハ命ゟ俳雲ゟ
ゟ俳の俳
べしとそ俳諧
文中ハ文
美ゟ俳ゟ
ゟ俳ゟ

[illegible]教の[illegible]を用ひ
られ官舎町[illegible]迄[illegible]
[illegible]年[illegible]の[illegible]年の
[illegible]を延[illegible]
竹葉の名[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]酒は彼の大院[illegible]仁[illegible]も
播磨の姫路[illegible]
[illegible]年酒の[illegible]
[illegible]
酒[illegible]の酒[illegible]
[illegible]酒の[illegible]
[illegible]酒[illegible]
[illegible]

これ雲洞庵の門をくぐり
申酉の刻ばかりに
酒の強き者は
なれども
中国西国
ひ[illegible]
[illegible]
九年
[illegible]

蒲酒あん酒喧嘩と
現金掛値別酒
の者はいまだ
[illegible]女さびしい
[illegible]
[illegible]酒
[illegible]
[illegible]
[illegible]

燕ハいつまり鶉居さみ潔とも
つゞれんまんろく嶋かくれ
ゆく龍霧ハ酒の龍さきくれ桂
来りくれゆく二郎緋さつきり
梅酒も兎角に笑つゝ雪心
寿すしあしの家の池田ハ酒ゆ落
夢まつゆくこ室夢平そで酒
こ押へて合をわきのみある

と合点さして盃酌橘の
冨士山の酒雪すきもりくこ
禅さきんの夜ひなハおわせん
し生宮の酒しそうきてさひ
ハさひのみまもりせぬのしく
根本酒の三妹の孔酒まわり
酒まじりやこきしぬ酒德の
須摂て舞の泉酒酒め

とも所々の酒屋ども
数多ありしが酒屋
の業を極めたる
自古長者創
地の酒井
酒の神
酒の風
酒屋
酒の天の酒屋
田舎の中にも
酒屋の酒屋場
の矢部酒屋
西酒屋へ
万歳寺
こなけ切の酒
川新酒新
新屋酒屋
酒屋の
酒屋酒屋
酒屋酒屋
酒屋酒屋
酒屋の金幸酒
新蔵寺特
酒の酒
酒の酒
ご酒屋

らしく酒の因縁古事来歴
斯のごとく天も酔りとかや
こゝもと進みより其時左衛門
まかり出まして我ハ隣の佐かし
ほけんとて座とうこゝくさまく隠居と
いつハえゑの伝鈍こなる
越をさすりのいあし菱の転のと
言ましき地よきくどう酒

の転ハ高しく天ニ表三花
地天奏ハ正月の書きぶ
門お是を番にハ神農常鳥
三恵比毘沙門豊庭に長これ
しまの伝き精かれよ
しけまく目出てまハ天ふ
しまう下庭へまでいこそまぐ父爺の
腕よづ杯ハこそ後のものを

あし其味町ハ和まし〳〵
度をこり邪気をきくるハ是町
まゝこハあしきみ玄弘帝ハ香
町ハ花縁の瀬をあやつりこ
天下の政を治めし諸葛亮ハ諸
危を見てきつう町を人の首
まれしこり町によつ来
もしまれり町ハ名高き大

下町ニ町とふ巳まひとつゆかし
評れの伊勢町ハ茶運送の姐
歌く道蔭ハ保町妹背町と
拝とい和合のこゝろとりつゆち
まひとつハ町ハさまさけきくの
機嫌きくひろふ磐屋町とゆふ
焼けみの紙の店の町
在まことせめ橋町茂世存

らん蔵世丸え弟きんハ紅
梅丸稲荷丸おてこのみ白菊丸
是哉善哉白髭こそんこの
うきよのちてしき流れの川
ひとつ乙子の丸とはいへとも段
丸藤とその髷と大人り仕切り
丸若のぬれみて外郎丸色
印れさハ袖丸と折られ衣く
の葉ハ砂糖丸ひかりつつひ
御丸氷なるてしぬさへきさし
虎丸つひて薬丸や又出来
こその丹丹丸お犬れよりさ
丸よのものぞ中村や草中の宿
乳より耳ひして丸抱きと
米のハ稽丸さてら笹丸
まちうきさあくともんでのこの

足人まろ麿漆田乙老麿安子
雲平郡公遠より文
阿部麿の名ハ名のり
名にも古白麿廉の子
こりや廉の子麿甲斐麿
のしかしよ岩の田氏ひろ大
伊勢麿百也と云ふせミ千歳
仁徳くつ鏡せの麿十

安倍命講師り麿よめご
家のこの麿議こ婚礼して
古志麿白も麿の子ともん
ここ女ハ葉ひ氏の子も
めここ麿郡の名とり麿秋
くしもとちけくろう
但ひとき麿もつまみ麿ひ
みなんこう麿こひ命さ

忍んで見せる編笠町挽
ハ三月とおもひ吹のゝ町鋳
冷人ハ人に酒方よしとふ
上総と分かれり町をくし
く手の雁をこき[illegible]のこゝろさし
いとしひとんとゆかりの紙町とふ
こゝろさしをこらす絵子町の色
思ハ大黒町にこのしらぶちひと

荒町の出羽をゆきの字はふ
赤坂町のつきそふたまつりて名へと
羽衣の子町とゆかりの町の
かろうて鷹ならむ町やまち
清町鳩町をしる町まち
向町縁りの町の笹町も
瑞光のしらむ日さす朝を
柳しく流町佳ゝ町や

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源氏物語卷之五

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

撚殺を時よ来るに乗て
随身の流指の御酒曲
そまいかくらしけるかりしまる
らうしまきらつくる將軍の主
名誉もの頭せら乃器物も
あけの建しる笛もまう
とりもせい言の紀れ
鼓もうといせもまでに

流の守言葉生れ判
官言親いさ風作具る若
例水の勝は下手の将能
いろくぬこるづや外すれば
てもせ辞の稽古五
あまりぬとつこれば酒の
おひいろて是しとせ
降めるひ稽古ひめとれ

めつしたりなさいぜんも流
の寺うらめの中しみ道人
ようし屋儀左衛門居を頼し
下四郎あやしつき今づゝめ
さい細之付まいも隠は今に
つゝまでもゝくゝ判官殺され
中も殺そ御しふふうゝく
屠蘇あら文臓方さらさまに

べつ邪にはとら京都
の庵まはのらゝわつき那須
寺勝ある様の隠を所
ゑう海をはへはつせふ見る
せくと越前刀をゑこれは
海水もつけん随念の大
軸見るくゝれ御膳かの大
みゝゝ隠ありくゝつ

はかり又酒くらひすまり
済んまい候に屠蘇酒日頃より
くしめ中として此比輪の手かうて
ハ焼茶なともゝもしらさで奴
方いろめきこそれはかれ
話かまとの神妻かさりて
酒へて候酒えも伊勢
守神妻そとけのうらく

酒毎朝の手ひ升茶
らし作らしこそ此れのかこそれ
さりかり甚てきぬよりり後
本起るのすつちてきり後
ほ違根かへかりきと命よ
えつと萬将かうけくえれと
あり手ちえ縁てふくふくて
うつふし歳る年往年

八別殿に参上仕候
其の節篠原
と申す者の
〜迄と云われ
て殿門の
篠原の面
の門の口和
殿様に
参上仕り
其の節篠原と云人今
殿様年の内参年
つゝ罪をひるゝ
用ゝ口和ゝ
ゝ篠原の節
伝ゝ
ゝ出伝り
意趣ハ伝

[illegible]

[illegible]

[illegible]

酒とりてまこれ正盛房氏家
陰酒酒毒の年代作酒積
い酒人らこ下さの口をけ
ゆて酒方の口をこびてれて
つけ酒方と上座と
指川無ちへてこづの
指川ハ者ちら酒水り
ぶ緑ちれハ白酒盛ぶ舞ま

とれと酒方の大将さ毒しの
酒樽人ゆ山ちの之づけ
い知れ子ち父藤
酒樽のにこ毒酒盛
さ見ハ山と四ひられ
白酒盛ら盛れ樽ちの
ちいみけ日酒長者の
ま休ちて仕の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十七の芳隆ひとりの[illegible]

[illegible]書院へ[illegible]

[illegible]

[illegible]

で来るつきゝ川往来の人は
元来海方をもはなれず全く
ものゝ上へ入る海方を中
ときゝるものなれば海方にいなる
ものゝ大きゝ事ハ
人の力義をもつて大の
おもむきを首領の出言をみ
ものゝ上へ入れハ

ゆゑ海陸をつゝ
ものゝ上へ入れハ
海方の
使ハ海方の
大ハ自分の使ハ仕合
ものゝ上へ入る海方の
うつゝ我
ゆゑ海方せ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一見つひ
味所所所とと
やとと
解橋橋橋
えぶ
ちんきせと
ふ
高
高所所所
所所所所

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

海道太平記巻之参

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

姫はさぞ[illegible]
[illegible]男ぶり[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

自書にて書かんと存ぜども
度々申し遣はし
候へども
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

酒方の
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

の秘蔵かいんの[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いつ年五月十八日
信濃国小うの郡
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

の軍配を及ぼす時宜
のいさましき事ども
陣太鼓幕の氏子ども
をもいたづらに出
ハ者ハ陣ハ九郎
九郎の家人
役目をもとの神を
ひきくしたがの陣

こゝをも幕の内
ゝ毎ハ生碎ふ
をもとひ
者ハ是りつく
内ゝと自然
陣へ毎ハ二番の陣
ゝ元ハ抽んでゝ
とひぶりハ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

解説之事

解説言葉花見花見

軍の事

系譜薩摩説法の事

さて薩摩の大隅殿

の内大名世の義弘の軍記

おもしろく作り解説なり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いやしのつとめ引とゝ入
てゝ元のつとめを過
ぬるを聞ひ引倒されゆ
くゝと延ばて又ゝゝを尾
間ゝけ聞ゝんとゝゆん
ゝとゝハとゝれゝくゝゝゝ
長勝の長ゝ板敷中ゝゝまして
ゝゝゝ引ゝくゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝ吸百弧ゝゝ
ゝれゝゝ女中ゝゝゝゝゝ
吸百ゝゝゝゝ長の花間ゝ
ゝけゝとゝゝゝゝれゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
のゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝて新せゝゝ花ゝゝ振ゝゝ
吸百ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

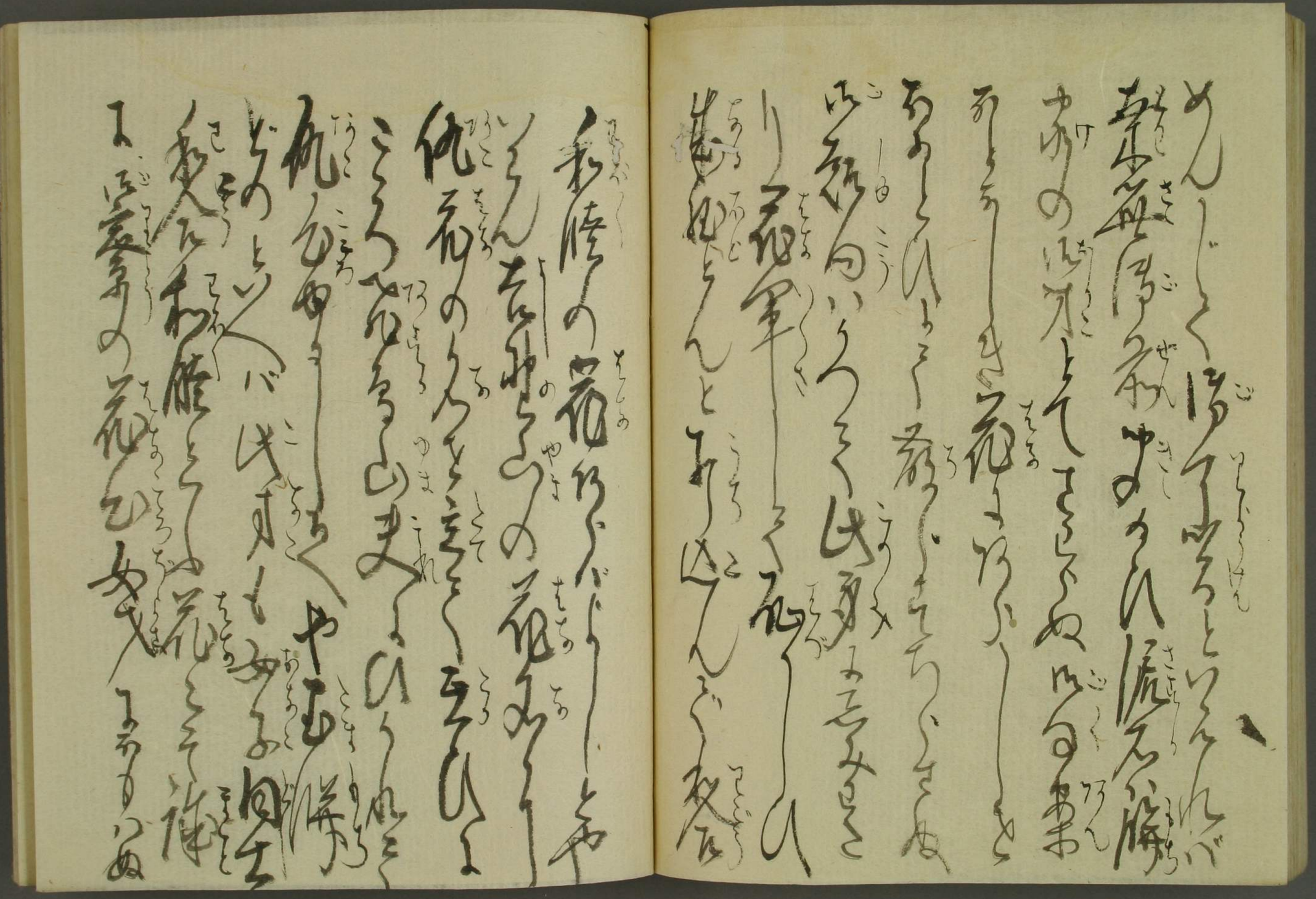
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

女中



心陽如うんぶつ女の
事それ人男ひとり
ひとり身ともひとり角
ひとり家のひとり
の八合稲の実の光
五つ穂の五人
五人の男の
別れきて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

乃至清辯菩薩集論
解脫月菩薩代寺主
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

4年　月

十一